



工事タイムス

昭和六年五月號

**大阪地下鐵の崩壊事件** 四月八日午後十一時四十五分大阪市廳前淀屋橋北詰の地下鐵道河底工事中の河岸約一坪が渾然たる一大響響と、ともに陥落するに伴ひ百數十本の鐵矢板はヘン折られ折角の地下鐵のトンネルも泥水が浸水し殆ど駄目となりこれがため電車軌道が宙に浮んで不通となつた椿事に關しては去る十日午後二時半より平塚電氣局長以下關係技術家及田邊、直木、高橋三博士等列席の上緊急對策協議會を開いたが結局市廳舎前南に鐵矢板を以て締切りを設け以北の排水をなし工事を進め、ことにしたが一方崩壊した淀屋橋臺北部分け之を現橋の下方面まで矢板を打ち土砂を充填し噴水を見た地下鐵下部には急結セメントを以つて湧水を止め排水の後地硬調査をなし更に協議の上方策を樹立するが地下鐵のトンネルは從來通りの設計で可能であるが之を披覆する橋臺部分の工事は結局適當の長さの基礎杭を使用するに至るものと見られて居り現在の見込みでは市廳舎前以北は一ヶ月程度の遅延となるが橋臺附近は今後少くとも三ヶ月以上は遅延を見るべ

**土木學會視察旅行スナツプ……(1)**  
伊豆地震の際五丁餘も迂り出して立つてゐる老木(ナス・アキヤ氏藏)

く之に伴つて長堀、梅田間の開通期も著しく遅延し極く最近まで開通豫定期であつた五月も到底望まれぬ状態に陥つた譯である。今回の原因については淀屋橋北詰を六十尺迄掘つたのでこれから基礎工事にとりかゝらうとする時に一部軟弱の所から噴水したのもらしく鐵矢板工事の過失や設計の違算からではないものらしい。

**信濃川發電計畫實現** 大正十年以來再三中止の愛き目を見て居た鐵道省の信濃川發電所計畫は漸く事務所長の決定に依つて本年度より九ヶ年間繼續事業として着手されるに決定し目下事務所設置場所である新潟縣千手町に本據を置き事業の遂行に就き種々打合せ中であるが、今回該發電計畫の着手順序及び經費割當等が決定されこれに基き本月中に事務所の建物の完成と相俟つて漸次着手されるに至る筈である。尙同工事内容は新潟縣貝野村宮仲より水を取入れ山邊村吉平にて放流し此の間に山邊千手に二發電所を建設して16萬8000キロの發電をなすものであり第一期より第四期に分ちてこれを實施するのであるが今回決定した第二期迄の工重順序經費割當額は次の如くである。

(一)取入口堰堤築造(225萬圓)(二)取入口築造(125萬圓)(三)水路建設(140萬圓) 四 沈砂池築造、75萬圓 (五)淺川原調整池築造(145萬圓)(六)壓力隧道建設、190萬圓(七)水槽二本設置(80萬圓)(八)水壓鐵管建設(70萬圓)(九)千手發電所建設(270萬圓)(十)放水路建設(110萬圓) 困に取入口堰堤築造より水槽設置を第一期それより以下を第二期として第一期は昭和十一年度第二期は同十四年度末迄に完成する筈になつて居る。

**小見發電所着工** 富山縣管電氣では既報の如く既得小見發電所 1萬2000キロの開発をいよ本春四月より實施することゝなつた、同時に稱名川筋稱名發電所約5000キロの土木工事も四月より着工することゝして目下準備一切を調べてゐる。

**秋葉原驛の改良始まる** 兩國お茶の水間の高架線築造が完成すれば現在の秋葉原驛が東海、中央各線の中心をなす譯で早くから同驛の改築設備増設等につき研究が進められて居たが今回第一着手として同驛にテルフアーを新設する事になり近く同設備に必要な双行軌條の敷設から事業を進める事と

なつた、これが済むと同時に驛本屋改築、ホーム新設など次ぎに事業が起される筈である。

《 **インターナショナル・エア・ポート完成近し** 》 逓信省の羽田國際飛行場は最近漸く完成の域に達してゐるがこの飛行場の完成と共に直ちに現在の立川飛行場にある事務所その他一切の移轉を實施することゝし本年八月迄には全部を完了して本式の事務を開始する豫定である

《 **釜山郊外洛東の新可動橋** 》 可動橋梁界のエキスパート山本卯太郎氏の設計になる釜山郊外洛東江の新橋は總工費實に 360萬圓と云ふ東洋一の可動橋であるが四月半の着工期を控へて釜山府では之を請負とするか直營とするかに就き種々協議を重ねた結果大英斷を以つて直營工事とし唯鋼材部分のみを大阪汽車會社の請負となすことに決定を見た様である。

《 **土木學會 視察旅行** 》 は既報の如く三月二十一日二十二日二日續きの休日を利用し、伊豆地方及清水港震災被害狀況 視察し兼ね修善寺温泉 泊旅行が催された。參するもの那波會長を始めとして六十餘人、東京驛出發 途中早川筋内務省砂防工事の視察に始まり、箱根三島の震害地を視察し、修善寺菊屋旅館に投宿、七時より懇親會 開き席上會長の挨拶あり、翌日は十時に修善寺を發し、午後清水港の震害狀況を視察し、七時五十六分東京驛着放會したが、時候柄なかなかの盛會であつた。(カツトは當日川崎工場的那須氏の撮影になるもの)

《 **故太田圓三氏 胸像除幕式** 》 かねて同氏の知友間に企劃されてゐた前の復興局土木部長太田圓三氏の記念建造物兼に胸像が竣功したので、4月21日午後三時から深川相生橋の中の島公園で官民多數出席盛大なる除幕式が行はれた。

《 **株式會社間組** 》 從來合資會社であつた間組では此程組織を變更し株式會社として陣容をととのえ斯界に飛躍することゝなつた。因に社長には小谷清氏が就任した。

《 **西松組 移 轉** 》 赤阪區臺町にあつた西松組東京支店は去四月一日から事務所を丸ノ内八重洲ビルに移したが、更に五月

には京都本店も同ビルに移轉、中央に於て堂々活躍することになつた。尙電話は丸ノ内3806番に變つたと。

《 **土木局長 更 迭** 》 濱口内閣の辭職に依り若槻内閣の成立と共に内務省土木局長の更迭が行はれた。

埼玉縣知事 丹 羽 七 郎  
任内務省土木局長  
内務省土木局長 三 邊 長 治  
任内務省地方局長

《 **信濃川電氣事務所長決定** 》 別項の如く多年懸案の鐵道省信濃川發電所が愈々起工されることになり、新潟縣中魚郡千手村に新設される電氣事務所長として北海道建設事務所長堀越清六氏が任命された。

**竹貫登代多氏逝去**

數學教育家としてはやうく明治時代に其名を知られてゐた竹貫登代多氏は四月十四日巢鴨町一ノ三自宅に於て病氣のため長逝された。行年七十六。氏は攻玉社近藤眞琴門下の秀才で、著書も多く、資性磊落名利に括淡にして晩年まで攻玉社講師として後輩の指導につくした我國數學教育史上特筆さるべき人である。

土木學會視察旅行  
スナップ……(2)  
赤王附近の陥没地  
を視察中の一行、  
(ナス・アキヤ氏  
藏)

